

■ シクネスゲージの使用例

今回は比較的低価でありながら、自動車整備に欠かせないツールの1つであるシクネスゲージを取り上げて、実際の使用方法の中での一例を紹介してきたいと思います。

商品コード	商品名
2001000004003	AP 25PC シクネスゲージ

作業手順①

シクネスゲージを使う頻度が多い作業の代表にバルブクリアランス(タペット)調整があります。今回は構造の簡単な OHV1500cc エンジン为例に解説します。

右図は作業をし易い様にスパークプラグを外した状態です。車種によって、調整作業が冷間時/温感時での指定があります。各車種の整備解説書を参考して下さい。



作業手順②

このエンジンは一般的な直4ですので、まず1番シリンダの圧縮上死点を出します。簡単な方法としては、デストリビューターキャップを外してローターが1番に向いている位置で止めます。



作業手順③

右図がロッカカバーを外した状態です。ターンフロー型のエンジンですので、IN/EX バルブが一列に並んでいます。パッキンがコルク製ですので、外した段階で切れてしまわず。オイル漏れ防止も兼ねて、古いパッキンを交換します。完全に除去する為、スクレパー・ガスケットリムーバー等も合わせて使用します。



作業手順④

左図の様にスクレパーで古いガスケットを除去します。削りカスがヘッド内やデストリビューター内へ落ちない様に注意を払います。スクレパーで除去しきれない場合は、オイルストーンや #400 以上の細かな耐水ペーパーで軽く落とします。



作業手順⑤

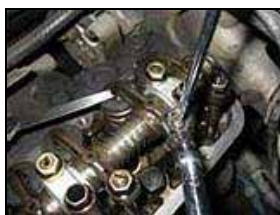
きちんと1番シリンダの圧縮上死点が出れば、IN/EX 両方のロッカアームに軽い遊びが出来ます。遊びを確認したら、それぞれのクリアランスをシクネスゲージを使って測定します。基準値は各整備解説書等を参考にします。

このエンジンの点火順序は1-3-4-2なので、1番シリンダが終わったら上記の順序に沿って点検・調整していきます。



作業手順⑥

調整値から外れていたなら、左図の様に調整します。全バルブを測定・調整し終わったら、同じ工程をクランクシャフトを(正回転に)回し、もう一度測定し直します。(回転させると、微妙にずれてくる場合があります。)



作業手順⑦

新しいガスケットを使って、ロッカカバーを取り付けます。組み付け時に噛み込まない様に注意します。

組み付けが完了したらエンジンを始動します。オイル漏れ・異音が無いのを確認して完了です。



作業手順⑧

シクネスゲージの使用に際して、同じ隙間を測定しても個人の感覚の違いで誤差が生じがちです。右図の様に一度マイクロゲージでシクネスゲージを挟んでみると参考になります。例えば 0.15mm を挟んでみると、意外にきつめなのが分かります。一度機会があれば、この様にして正確な感覚を憶えておくと大変便利です。

